

読者からの感想文

- 1) エッセイ集、泣きそうになりながら、一気に読んでしまいました。
絵本感覚なので、読みやすいかと思い、息子にも読んでもらいました。
数ページ読むと「これ、僕と一緒にだ！」と叫んでおります。
そして、あれよ、あれよと読んでしまいました。
後半の方は、少し難しいようでしたが、息子の気持ちをゆさぶったようで、読み終えて「何か泣けてくる」と言っておりました。
一番印象に残ったのは、
4. 『ママが泣いた日』と 5. 『切ないゆで卵』の後半
自分にも身に覚えがあることです。
3. 『ごめんなさいが言えなくて』は題名だけで共感し
「言えないんだなあ・・・」とため息まじり。

主人も「どこが一緒なんだ・・・」と読み始め、彼も一気に読み終えて、
「ほんとに、みんな、一緒なんだなあ・・・
きっと、頭の中、混乱しているんだろうなあ・・・
これだけ、みんなが一緒のことで悩んで、困ってるって解ってるのに、
何とかならないものだろうかなあ。特効薬とか発明してくれたらなあ・・・」
などと言っておりました。

私には、この本が、息子の、PWSの子ども達の、魂の声に思えました。
あの子達の心の中って、きっと、自身でも整理がつかなくて、
何がどうして、こうなってしまうのか・・・なんて解ってないと思うんです。
もちろん、私たち親も、理解不能。

悲しいかな、魂の声を聞いたところで、今の日本で生きていくためには、
やっぱり、声を出さないとやっていけない事もあると思うんです。
でも、あの子達の心の声、魂の声を知ると知らぬとでは大違いです。
ステキな本を作って頂き、ありがとうございます。

- 2) 画も詩も素敵です。作者の感性に感心しました。
- 3) 本を読みました。これは、長く耐え抜いた親御さんたちの慟哭のように感じました。非日常が日常の日々。私は涙を流すことしかできないでいます。
- 4) 絵も詩もいいです。読んでいて涙がでました。
私の母もよみ、「孫のパニックも病気なんだね～」と、わかっていたはずですが、再度、認識したようです。